

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもひろばポーポーの木みなが		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 6日		～ R6年 11月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	R6年 11月 6日		～ R6年 11月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	敷地が広い為、走ったりボール遊びをしたりといった体を動かす活動や、畑活動など食育につながる取り組みを行うことができる。	外遊びの際には高学年の児童を中心に大人数で取り組むことにより、ルールや守り事を意識しながら遊ぶことができるように支援を行っている。	現在も安全に注意はしているが、児童同士で危ないことを注意しあい、気を付けることができるよう支援プログラムを検討している。
2	平日・休日ともに課題学習の時間を設定し、学習習慣を身に付けられるように取り組んでいる。	30分程度の時間ではあるが、机に座って学習する機会を設けている。答えが出る・高得点が出る事については当然ほめるが、児童自身が課題をする時間だと意識していると見られるようであれば評価し、ほめるようにしている。	最終的には学校での授業を着座して受けられるよう、ステップの課題を設定しながら学校とも連携を行い支援を行いたい。
3	夏場には大きなプールを設置し、体カづくりを行っている。	水泳が苦手な児童が自分のペースで水遊びをすることで自信をつけ、スイミングスクールに通うようになるなど、一定の効果はみられている。	児童の自信につながるよう、水遊び以外の取り組みも検討している。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	従業者の基本的業務や利用者の特性への理解や知識のスキルアップが必要である。	現状、職員個人が持つ知識や経験に固執してしまう傾向がみられるため、利用者個人個人への特性に合わせた支援・療育ができていない場合がある。	研修やミーティングを重ねることで情報共有を行い、自身のスキルアップを意識して日々の業務を行う必要がある。
2	活動の内容を幅広く提供できるようにしていく。	様々な児童の好奇心を満たせるような活動プログラムを準備できているとは言い難い。	遊びの中でたのしくルールを理解できるような活動を職員同士で話し合い、検討をしていく。
3	地域との交流が少ない。	他法人や地域住民との関りが少なく、当事業所内で活動が完結されている。	様々な行事や地域の散策を行い、まわりの人々との関りを増やせるような取り組みを検討していく。